琉球・沖縄 年中行事 なんでも？！Q&A

ヒラウコーにお線香、どこでつけますか？

●Answer
沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照（きえ りゅうしょう）

Q 先月、祖父の法事のときにお線香を台所のコンロでつけたら、親戚のおばさんたちから怒られました。家族は誰もタバコを吸わないので、ライターもありません。コンロがダメなら、どこでお線香をつければいいのでしょうか？
（Yさん 国頭村20代女性）

A アドバイスをくださった親戚のおばさんたちは、沖縄のしきたりにとても詳しい方々ですね。台所のコンロは便利ですから、お仏壇でのご焼香でもついつい利用しがちです。それはそれで、今どきの作法としては〝ある〟のお話ですから、OKかなとも思います。このような生活習慣の変化で儀式や法要の簡素化が進む一方で、ウスーコーのご法事の際のご焼香は、お仏壇のロウソクからご焼香を行う方が望ましいとおっしゃる、ユタやウサギヤの先生方のお話を耳にしたこともあります。

その考え方の根拠には、「ブチダン（仏壇）での焼香はグソーグトゥ（後生事）、ヒヌカン（火之神）での焼香はウグワングトゥ（御願事）」という沖縄の格言が示すとおり、同じように見えるご焼香でも、お仏壇とミーヒヌカンガナシーメー（御火之神加那志前）というヒヌカンでは、その意味も対象者もまったく異なるという考え方に起因するのです。

お仏壇は仏事、ヒヌカンは神事

諸説ありますが、お仏壇は仏様やウヤファーフジのご先祖様を敬う場所になるという考えから、その方々に対するご焼香だとされています。一方、ヒヌカンは神事の一環で竈（かまど）の神様などを敬う場所になりますから、かまどの神様などに対するご焼香だと考えられています。そこから、お仏壇でのご焼香はロウソクを用い、ヒヌカンでのご焼香はコンロ（かまど）からと、あえて区別する発想につながったのだといわれます。

悲智二徳論（ひちにとくろん）

お仏壇は仏事を行う場所なので仏式の考え方を尋ねてみますと、「燈明（ロウソクと同意）は、仏様のまことの智慧の心を表し、生花は仏様のいつくしみの慈悲の心を表す」と言い伝えられています。この考え方を「智慧と慈悲の二つの大切なもの」という意味で、学問的には『悲智二徳論』といいます。仏様の長所はたくさんあるといわれますが、ロウソクに関するものには、「何年、何十年、何百年もの暗闇でも、ともしび（ロウソク）は一瞬で回り明るくし、心の迷いの暗闇までも照らし出す」との文献があります。

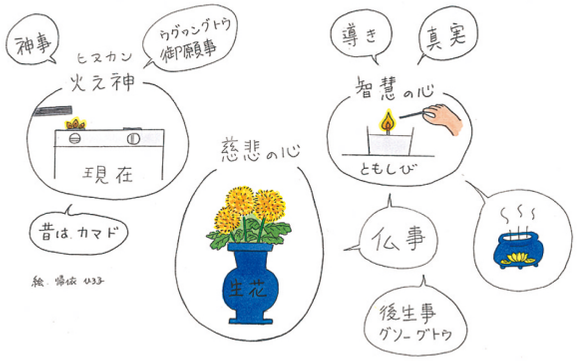
そのような考え方から、沖縄では、お仏壇のロウソクは2個のイッチー（一対）を準備して、正面に向かって左側のロウソクは、葬列というお葬式のときの故人様をお墓へウンチケーする行列を案内するメーギョーチン（先頭の提灯）と敬い、正面向かって右側のロウソクは、同じ行列を後方から補助するクシギョーチン（後方の提灯）と敬う、地域や家庭があります。この2つの提灯は、昔の沖縄の葬列が夕方や夜であったことから、野辺送りの会葬者の足元を明るく照らすのはもちろん、大切な故人様のトータビ（唐旅・古い沖縄のしきたりでは、中国への旅が成仏と重なるという考え方があります）も迷うことなく明るく照らし出すと比喩されています。

仏壇にロウソクを

このような意味から、現代の沖縄でも、お仏壇での故人様のご供養のときは、ロウソクから火をつけることが望ましいとの考え方があります。また、地域や家庭によっては、この2つのロウソクはメーギョーチンとクシギョーチンになりますから、ご焼香の点火用として、もう1個、つまり3個目を準備することもあるようです。

沖縄の先人の方々が、着火する場所を区別しながら、お仏壇とヒヌカン、それぞれのしきたりを大切にする意味は、私たちの想像を超えるジンブン（知恵）からきているようです。

このように、お仏壇のロウソクには、古からの伝統的な意味合いがあり、その考えを踏まえた沖縄固有の意味づけもあるといわれます。親戚のおばさんたちのありがたい貴重なアドバイスですから、今年の旧盆、ウンケーとウークイには、お仏壇にロウソクを準備して、沖縄のしきたりの上級編にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。



帰依 龍照　1968年岡山県出身（50歳）／学歴：岡山大学大学院博士課程単位取得・中央仏教学院研究科卒／専門分野：哲学（宗教哲学）／沖縄県内にて年間多数の住宅・墓の起工式（地鎮祭）を担当しつつ、団体・企業・学校にて『琉球・沖縄の年中行事・葬式・法事』に関する、進学・就職・いのちの講演活動を行う／FM沖縄『Sh@re TIME（しぇあたいむ）』・『トラディッショナルokinawa』毎週月曜出演中
ホームページ：http://www.kozazankyuyoji.com/　　ブログ：http://ameblo.jp/kozazankyuyoji

【質問をお寄せください】 年中行事やしきたりに関して、日ごろから疑問に思っていることや、質問をお寄せください。随時、紙面で紹介する予定です。「かふう編集室 年中行事Q＆A係」郵送、FAX、メールで受付。宛先は19面をご覧ください。